

今回は中学生の時の先生の何気ない一言がきっかけで英語との繋がりを実感し、現在は千葉県船橋市内の小学校で、JTEの役割と立場をしっかり見極め、ALTと協力しながらHRTをサポートされている塩田さんの実践報告です。



塩田敦子 さん

■ J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

中学3年の春、学校の課外英会話教室の申し込みをした際、隣のクラスの担任の先生に「将来英語が喋れるようになるぞ」と言われた事。その英会話教室の講師だった細中ネベンカ先生(ネーナ先生)に、教科書にあったフレーズを使って自分の近況を話した時、褒めて頂いた事。そうした小さな出来事が自分と英語を強く結びつけ、現在に至っています。

子育てが落ち着きそうになった2006年、過去の指導経験が塾等の小規模クラスだったため、小学校の英語指導方法を学びたく、J-SHINE資格を取得。運良く在住の船橋市でJTE募集があり、J-SHINE通信2014年5、12月号執筆の先生方と現職を開始。当初は、財政面からJTEは1年限りの職と言われたが、市内の校長先生方の有難い賛同を得て、気が付けば来年度は10年目という節目を迎えるまでになっている。

■ 現在の活動状況

船橋市は「HRTも授業に参加し、英語を使うモデルとする」という指針があり、JTEの果たす役割は大きい。そして、ALT、JTE、HRTの三体制になり9年目になるので、どの学校もHRTの英語活動への理解、実践力は高い。市内他校から異動された先生でもレッスンプランがあれば、年度開始から自然に授業に加わって下さる。

□JTEの役割：

①レッスンプランの作成

HRTが参加しやすいよう、挨拶をはじめとするHRTの役割が記載されており、新単元の導入やゲーム説明のデモンストレーションはALTとHRTが行う事が多い。

②授業内外でALTとHRTの架け橋

ALTが日本語を話せたり、子供との交わりが良好でも、文化的に職員室に溶け込むのが困難なALTは多数。事務的な連絡や、授業中にHRTやALTが出す提案に応じる時などの円滑なT.T.*1には欠かせない。

□ALTの存在：

重要である。児童は毎週訪れるALTに対し、英語でないと通じない事を経験上、身に付けている。話しかけられても拒否することなく、聞いたら何か分かるかもしれないという姿勢は育っている。JTEへはこちらが英語で挨拶すれば、英語で返してくれるが、日本語でも通じるので「英語を話そうとする動機づけ」はALTには叶わない。

□HRTの役割：

クラスを熟知しており、大変頼りになる。将来的には他教科を英語に取り入れた活動を行いたく、そのきっかけ作りはHRTとJTEの情報交換から始まると私は思っている。また、学期末には学年で英語の授業の反省や要望をまとめて提出してもらい、ALTと共有しながら極力生かすよう努力している。

一方で、HRTは多忙を極めており、あまり負担をかけてはならないと感じている。

□やりがい：

カードゲーム中や発表の練習など、教師の手を借りずとも児童が夢中で英語を使っていたり、習った歌やフレーズを授業外で口ずさんだり、ALTと楽しそうに交流している姿を見た時。

■ 今後の展望、課題、目標

校内研修をする時間が取れない学校が多い中、年間スケジュール等の関係で突然、英語の研修を依頼されることがある。そのような時でも喜んで引き受けられる力量を付けていきたいです。

学校の数だけ現場の様子は異なり、柔軟な対応力が求められます。また、「小学校英語」は未開の分野で、同時に注目を受けている分野でもあります。将来の指導者は、HRTか専科か私たちJ-SHINE資格取得者が担わせてもらえるのか分かりません。このような中で、J-SHINE資格取得者の私たちが小学校英語現場の即戦力であるのに疑いはないでしょう。

大学受験のあり方、高校、中学英語の指導内容と方法。また、小学校教育が担うべき範囲と昨今の家庭教育力など課題山積ですが、私たちに出来る事は「英語を頑張りたくなる中高生」を一緒に育てていく事ではないでしょうか。

小学校低学年はまだ純粋な心を持っています。HRTやJTEの私たちが英語を話していると、「大人になったら英語が喋れるようになる」位に思うかもしれません。冒頭で記した私自身が恩師にかけてもらった何気ない言葉は、今の私を造った「魔法の言葉」で、自分自身も日々の指導で「教師の一言」の重みをかみしめながら励んでおります。

おわりに、ある程度の英語力を身に付けた私達だからこそ分かる小学校英語に必要な知恵を積極的に出し合い、貢献していきましょう。

*1 T.T.=Team Teaching